



牛丸 尋幸 議員

新ごみ処理施設建設 住民の切実な声に応え 進め方の見直しを

■**圃新ごみ処理施設建設**について、3年前から地元町内で説明会が開かれ、最近も3回目の説明会が市長も参加して開かれた。しかし、未だに明快な地元同意は得られていない。住民からは「半世紀以上、ごみ処理施設を我慢して受け入れてきた、周辺地域の住民感情を候補地選定の評価項目に入れるべき」などの声が出されている。

■**圃現在進行中であり、引き続き誠意を持って進めたい。**
圃市の最高決定機関である庁議において、これまで不燃ごみに分別しているプラスチック類や、すでに埋め立てたプラスチック類について、新ごみ処理施設で焼却を行うと決定しているが、見直すべきではないか。
■**圃決定したのではなく、方針として持っている。**
有識者や市民の代表が入った建設委員会(仮称)を設けて、議論していただく考えた。



沼津 光夫 議員

空き家対策について

■**圃空き家調査の現状と結果をどう捉えているのか。**
■**圃現地調査の結果、2,238軒について、空き家と思われると判断。現在、建物所有者に対して、使用状況等のアンケート調査を実施している。**
■**圃調査結果の構造別・建築年代別では、木造建物が1,931軒と9割近くで、昭和56年以前の旧耐震基準の建物は、建築年代不明も含め、1,870軒と8割を超える。**
■**圃全国的には空き家バンクなどいろいろな政策が行われているが、市の取り組みは。**
■**圃空き家紹介制度(空き家バンク)への登録を促し、制度の活性化を図っているほか、(株)まちづ**

くり飛驒高山、宅地建物取引業協会への情報提供の希望などを伺って、具体的な活用につなげて行く。
■**圃高山地域の空き家が支所地域より大変多い。今後の対応は。**
■**圃市内の空き家のうち、70.2%、1,571軒が高山地域。観光客が訪れる市内中心部の歴史的な町並みにおいては、連担した町並みを保存するため、できる限り解体を避け保全活用に軸足を置いた取り組みを進めるべきと考えている。**
また、支所地域では、移住希望者等に紹介するなど、空き家活用や地域活性化にいかにつなげていくかが課題と捉えている。



榎 隆司 議員

介護環境、道路の 維持管理について

■**圃介護等の見守り等のネットワーク確立支援について**
■**圃各地域の事業者と連携協定を増やし見守りネットワークを進める考えは。**
■**圃警察や郵便局、地域の小売店、金融機関等の事業所に参加をお願いし協定等を結ぶなどの対応準備を進めているところである。**
■**圃介護申請手続きのサポート支援について**
■**圃介護保険の各種申請・更新の手続きについて、期限切れとならないように、未提出者に対して、更新手続の再通知書を発行する考えは。**
■**圃申請書等未提出者に再通知書を出す考えはないが、通知文書につ**

いては点検し判りやすくする等、介護サービス事業所との連携を密にして申請手続きのサポートに努めていく。
■**圃通学路・スクールゾーンにグリーンベルトを導入することについて**
■**圃子ども達が安心して通学できるように、歩車共存型舗装にするか、グリーンベルトを採用する考えは。**
■**圃現時点ではグリーンベルトは採用していないが、早期に整備することが可能な方法であると考えられるので、他市の事例を研究していきたい。**